

太子町企業誘致戦略 概要版

太子町企業誘致戦略は、持続可能な経済成長につながる企業誘致を戦略的に推進するため、本町のビジョン及び企業誘致の方向性を示し、ターゲットを明らかにするとともに、企業誘致に対する町の課題、具体的な取組みを明確にすることを目的とします。そして、太子町都市計画マスタープランの都市の将来像「活力・魅力がつながるまち太子町」の実現をめざします。

本町の強みと弱み

本町の特徴から強みと弱みを整理すると、以下の通りまとめられます。

※ 青字は強み 赤字は弱み

地勢	<ul style="list-style-type: none"> ● 町内は比較的平坦な土地が多い ● 市街化調整区域の占める割合が高い
環境	<ul style="list-style-type: none"> ● 年間を通じて温暖な気候に恵まれている
人口	<ul style="list-style-type: none"> ● 年少人口割合は全国及び兵庫県よりも高い ● 生産年齢人口割合は兵庫県全体よりも高い ● 2045年推計人口は減少（2020年比で16%減少）と予測され、特に生産年齢人口における女性の減少幅が大きい ● 2045年推計人口は生産年齢人口の減少の差が年少人口を上回ると予測される ● 2045年推計人口（老年人口）は増加と予測され、特に女性の75歳以上の後期高齢者の増加幅が大きい
人口流動	<ul style="list-style-type: none"> ● 流出 > 流入で、通勤・通学のために姫路市・たつの市を中心に流出している
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ● 市街化区域において用地が不足している
産業構造	<ul style="list-style-type: none"> ● 専業従事者1人当たり付加価値額は「製造業」が最も高い
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ● 「電子部品・デバイス・電子回路」が製造品出荷額等に与える影響が大きい ● 製造業事業所数は多くの業種で年々減少している ● 「製造業（特に「電子部品・デバイス・電子回路製造業」）の雇用率が高い ● 町内の雇用が「電子部品・デバイス・電子回路製造業」に依存している ● 兵庫県が経済成長や社会課題解決の担い手になりうる「製造業」5分野を ● 重点立地促進事業に設定し立地支援を行っている
財政状況	<ul style="list-style-type: none"> ● 経常収支比率が令和2年以降増加傾向にあり、今後も高齢者の増加に伴う民生費の増大等に伴う増加が見込まれる
交通	<ul style="list-style-type: none"> ● JR網干駅は町境界に近接している（JR網干駅は新快速始発駅） ● 山陽自動車道を経由して阪神地区へのアクセスが容易である ● 姫路市、たつの市及び本町の各々の中心市街地を結ぶアクセスも容易である
特産品	<ul style="list-style-type: none"> ● 太子いちじく、損保乃糸、太子みそなどの特産品が多数ある
歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> ● 聖徳太子ゆかりの史跡等やまつりがあり、歴史・文化が継承されている
生活	<ul style="list-style-type: none"> ● スーパー、ドラッグストア、診療所、金融機関等、日常生活に必要な施設が揃う ● 幼稚園から中学校までの完全給食や中学3年生まで医療費無料など子育て環境が充実している
企業分析	<ul style="list-style-type: none"> ● 本町の住民・企業が稼ぐ所得に対し地域の産業が提供できていない ● 「医療、福祉」以外は付加価値額と労働生産性の特化係数が全国水準より低い ● 特定の企業が本町の経済に与える影響（依存度）が大きい



太子町の課題

整理した強みと弱みから導き出される本町の課題を以下とします。

課題1 ⇒ 特定の企業に依存せず、将来も安定した雇用が確保できる堅固な産業基盤の構築

課題2 ⇒ 雇用機会の創出に伴う定住促進による町財政の安定化と公共サービスの維持

課題3 ⇒ 産業用地の創出と企業が進出しやすい環境整備

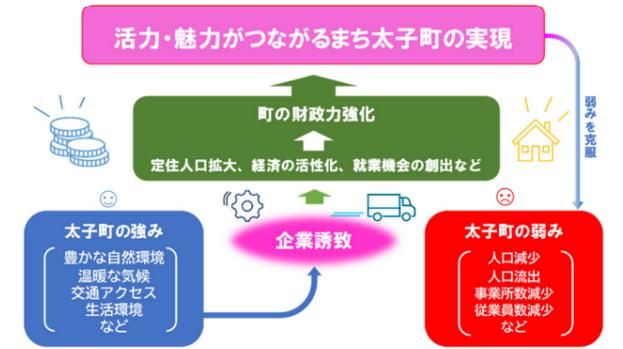
太子町のビジョン

活力・魅力がつながるまち太子町の実現

少子高齢化、特に女性を中心とした人口減少、町外への人口流出、事業所数や従業員数の減少など、本町を取り巻く現況は厳しく、これが進行すると、住民ニーズに対応した公共サービスを提供することが困難になるため、人口構造や産業構造の変化を促していく必要があります。

一方、豊かな自然環境、温暖な気候、交通アクセスの容易性、充実した生活環境など、町内には数多くの強みを有しています。これらを活かし企業誘致を推進することは、町内企業全体としての担税力の強化が図られ、従業員の町内への移住に展開すればさらなる住民税の増加が期待できるなど、確固たる財政基盤の確立につながります。さらには、この取組みにより、人口の流入や定住人口の拡大、経済の活性化はもとより、就業機会の創出など、多岐にわたる効果が期待され、町全体が活力・魅力あふれるまちへと進化します。

これをビジョンと定め、企業ニーズを捉えた産業用地の創出や、立地環境の整備・充実をはじめとした積極的な立地支援を行い、企業誘致の成功と担税力の強化を目指します。



企業誘致の方向性

本町の弱みから見える課題を克服し、強みを最大限に活かすために誘致すべき企業の方向性を以下とします。

方向性① 多くの雇用を生み出すことができる企業であること

少子高齢化、人口減少、事業所数等の減少などは、行政サービス水準の低下に直接つながる問題ですが、本町の雇用が確保しやすい環境であることを活かし、企業誘致とそれに伴う雇用増加、さらに定住人口が増加すれば、町税収（歳入）増と行政サービス水準の維持・向上にもつながります。

方向性② 地域の強みを有効に活かすことができる企業であること

本町には広域への交通網が良く、企業活動に適した条件を有していることを活かし、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」への依存度を下げ、本町の強みを有効に活かすことができる企業を誘致し、雇用の安定化を図ることで、強靱な行財政運営を維持することができます。

方向性③ 環境配慮に取り組む企業であること

今や世界中の企業がSDGsを経営の中に取り込もうと力を注いでいる中、本町は豊かな自然環境と温暖な気候を有しており、また、工住混在地域になることから、既存の住宅地への影響が少なく、環境面に配慮した企業であることが不可欠です。

企業誘致戦略の設定

本町が求める企業誘致に向けて、誘致する業種の選定を以下とします。また、誘致企業に対する用地の確保に対する考え方や、企業に対して町が行う具体的な取組みについて示します。

ターゲット① 太子町の産業を牽引する「製造業」

本町の産業の強みとして、「製造業」が町の産業全体に与える影響が大きいことを生かし、「製造業」を誘致します。

ターゲット② 交通網の良さを生かした「物流業」

本町の強みである交通網の良さを生かし、町内の売上高を牽引する中核企業である燃料商社やスーパーと取引企業との配送など物流機能を担う「物流業」を誘致します。

ターゲット③ 町内に立地する「製造業」と取引関係のある企業

本町の産業の強みである「製造業」をより強固にし、町の基幹産業としてさらに発展するため、取引関係のある企業を誘致します。

太子町都市計画マスタープランでは、現在、上太田地区(9.44ha)、平方・柳地区(5.51ha)、阿曾・馬場地区(11.14ha)、沖代・米田地区(16.21ha)の土地活用が挙げられていますが、いずれも市街化調整区域であるため、関係機関及び民間企業との協議を重ねながら、用地の確保を進めて参ります。

また、具体的な取組みとして、積極的な情報発信、ターゲット企業への積極的なアプローチ、人材確保支援、各種支援制度の充実を行い、企業誘致を成功に導きます。

